

令和6年度

病害虫発生予察情報 第16号

注意報第8号

北海道病害虫防除所 令和6年(2024年)7月23日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

いもち病が多発する可能性大！！

基幹防除を徹底し、状況に応じて追加防除の検討を！

比布町及び北斗市の予察田で葉いもちの本田初発が平年より早く確認されました。7月4半旬には比布町および北斗市で急激な感染拡大が認められています。

札幌管区气象台による7月18日発表の1か月予報では、8月19日まで期間の前半は低気圧や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いと予報されており、今後も感染と発病に好適な条件となりやすいと予想されます。

以上のことから、基幹防除を適期に実施することは、例年に増して重要であると考えられます。また、基幹防除後も出穂期が長引いたり、感染に好適な気象が続いたりする場合には、追加防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- 予察田(本田)における葉いもちの初発は、岩見沢市で7月16日(平年:7月20日)、比布町で7月10日(平年:7月14日)と平年よりやや早く、北斗市で7月5日(平年:7月12日)と平年より早かった。
- 予察田における7月4半旬の葉いもちの発病株率は、岩見沢市0%(平年:0.4%)で平年並、比布町で100%(平年:32.8%)、北斗市で96%(平年:29.4%)と平年より高い(図)。
- 本病は弱い雨が長期間続いたり、寡照によって水稻の抵抗力が低下すると多発しやすい。発病適温は20~25℃である。
- 7月18日発表の気象予報によると、向こう一か月の天候の見通しは、気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予報されている。とくに、期間の前半は平年に比べ曇りや雨の日が多いとされ、感染に好適な条件になりやすいと予想される。

4. 防除対策

- 出穂期にカメムシと合わせた散布を基幹防除とする。
- 葉いもちの発生が多く、出穂期間が長引く場合は、穂が完全に揃うまで1週間間隔で追加防除する。

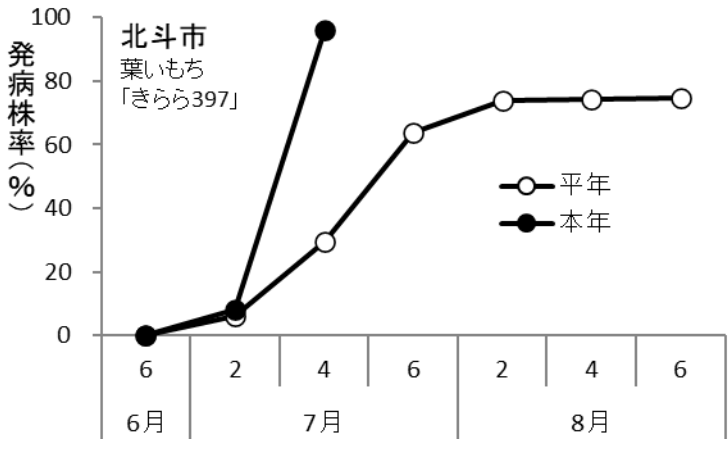
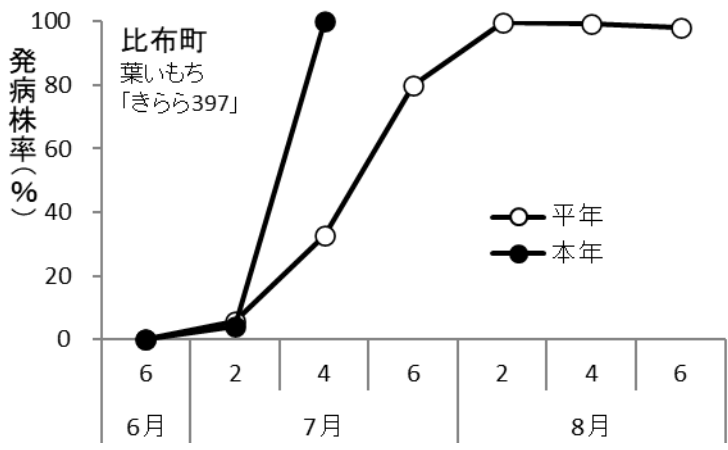
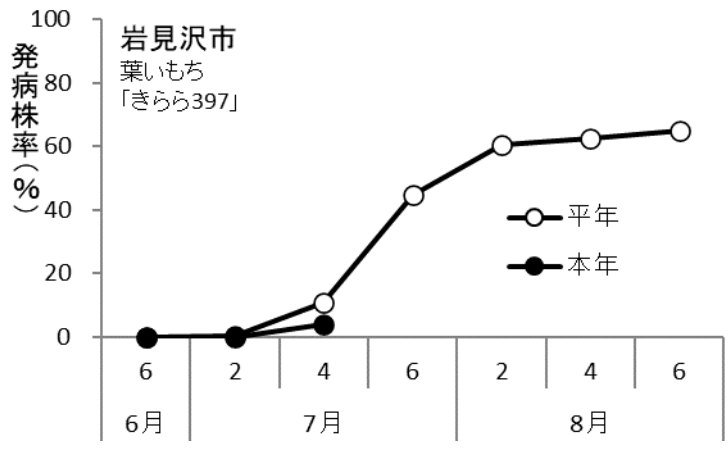


図. 定点圃場における葉いもちの発病株率